

構造躯体以外の劣化  
状況等の評価項目例

## 構造躯体以外の劣化状況等の評価項目例

以下は、「2. 学校施設の長寿命化計画策定の手引と解説」の「(3)②学校施設の老朽化状況の実態」のうち、構造躯体以外の劣化状況等の評価を行う際に考えられる評価項目の参考例を示したものである。

これらの項目はあくまで例示であり、具体的な評価項目・評価部位については地域の実情に応じ、各地方公共団体において決定する必要がある。

※なお、下記のうち、番号1～番号56の項目は、「学校施設の非構造部材の耐震化ガイドブック(改訂版)」(平成27年3月文部科学省)における「点検チェックリスト(学校設置者用)」の点検項目を抜粋したものである。

番号	観点	評価項目	評価部位	評価部位(詳細)	内容
1	安全面	外装の仕様・劣化状況	外壁(外装材)	モルタル	モルタルに剥落、欠損、ひび割れ、浮きは見当たらないか。
2	安全面	外装の仕様・劣化状況	外壁(外装材)	ラス	モルタルに剥落、欠損、ひび割れ、はらみが見当たらないか。
3	安全面	外装の仕様・劣化状況	外壁(外装材)	タイル	伸縮調整目地が要所に施工されているか。
4	安全面	外装の仕様・劣化状況	外壁(外装材)	タイル	タイルに剥落、欠損、ひび割れ、浮きは見当たらないか。
5	安全面	外装の仕様・劣化状況	外壁(外装材)	ALCパネルなど	層間変位追従性が高い構法により設置しているか。
6	安全面	外装の仕様・劣化状況	外壁(外装材)	ALCパネルなど	ALCパネルや押出成形セメント板などにずれ、ひび割れ、欠損、ガタつき、さびは見当たらないか。
7	安全面	外装の仕様・劣化状況	外壁(外装材)	サイディングなど	ボードにずれ、ひび割れ、欠損、ガタつきは見当たらないか。
8	安全面	外装の仕様・劣化状況	外壁(外装材)	サイディングなど	取付ビスに浮き等の異常は見当たらないか。
9	安全面	外装の仕様・劣化状況	外壁(外装材)	ガラスブロック	古い構法で設置されていないか。
10	安全面	外装の仕様・劣化状況	外壁(外装材)	ガラスブロック	ガラスブロック壁に面外へのずれやせり出しは見当たらないか。
11	安全面	外装の仕様・劣化状況	外壁(外装材)	ガラスブロック	ガラスブロックの欠損、ひび割れや目地部の損傷は見当たらないか。
12	安全面	外装の仕様・劣化状況	外壁(外装材)	コンクリートブロック	コンクリートブロック壁は適切な仕様で設置されているか。
13	安全面	外装の仕様・劣化状況	外壁(外装材)	コンクリートブロック	鉄筋によりコンクリートブロック相互が緊結され、かつ、周囲が構造体等に適切に緊結されているか。
14	安全面	外装の仕様・劣化状況	外壁(外装材)	コンクリートブロック	コンクリートブロック壁にはらみ、欠損、ひび割れ、目地部の損傷は見当たらないか。
15	安全面	外装の仕様・劣化状況	窓・ガラス	FIX窓	FIX(はめごろし)窓のガラスの固定に硬化性パテを使用していないか。
16	安全面	外装の仕様・劣化状況	窓・ガラス	開閉窓	窓に動きにくさ、変形、腐食、ガタつき等の異常は見当たらないか。
17	安全面	外装の仕様・劣化状況	窓・ガラス	横連窓	横連窓を支持する構造体の剛性が確保されているか。
18	安全面	内装の仕様・劣化状況	天井	特定天井	技術基準に則した落下防止対策がとられているか。
19	安全面	内装の仕様・劣化状況	天井	在来/軽鉄下地	野縁受けの端部の近くに吊りボルトがあるか。
20	安全面	内装の仕様・劣化状況	天井	在来/軽鉄下地	照明や空調等の設備周辺の天井材に変形やずれは見当たらないか。
21	安全面	内装の仕様・劣化状況	天井	在来/軽鉄下地	折れ曲がり天井になっていないか。
22	安全面	内装の仕様・劣化状況	天井	在来/軽鉄下地	天井材にずれ、ひび割れ、漏水跡が見当たらないか。
23	安全面	内装の仕様・劣化状況	天井	在来/木下地	吊木等が適当な間隔で配置され、耐力が十分確保されているか。
24	安全面	内装の仕様・劣化状況	天井	在来/木下地	下地材の腐朽、割れは見当たらないか。
25	安全面	内装の仕様・劣化状況	天井	在来/木下地	天井材にずれ、ひび割れ、漏水跡、天井面の著しい変形は見当たらないか。
26	安全面	内装の仕様・劣化状況	天井	システム天井	Tバーの端部の近くに吊りボルトがあるか。
27	安全面	内装の仕様・劣化状況	天井	システム天井	照明や空調等の設備周辺の天井材に変形やずれは見当たらないか。
28	安全面	内装の仕様・劣化状況	天井	システム天井	折れ曲がり天井になっていないか。
29	安全面	内装の仕様・劣化状況	天井	システム天井	天井材にずれ、ひび割れ、漏水跡が見当たらないか。
30	安全面	内装の仕様・劣化状況	天井	直張り	木毛セメント板等のボード類にずれ・ひび割れ、漏水跡は見当たらないか。
31	安全面	内装の仕様・劣化状況	天井	直吹付	吹き付けに剥落、欠損、ひび割れ、浮きなどの劣化は見当たらないか。

32	安全面	内装の仕様・劣化状況	天井	直塗り	モルタルに剥落、欠損、ひび割れ、浮きなどの劣化は見当たらないか。
33	安全面	内装の仕様・劣化状況	内壁（内装材）	モルタル	モルタルに剥落、欠損、ひび割れ、浮きは見当たらないか。
34	安全面	内装の仕様・劣化状況	内壁（内装材）	ラス	モルタルに剥落、欠損、ひび割れ、むくりは見当たらないか。
35	安全面	内装の仕様・劣化状況	内壁（内装材）	仕上げボード	ボードのはらみ、緩み、ずれ、漏水跡がないか。
36	安全面	内装の仕様・劣化状況	内壁（内装材）	コンクリートブロック	コンクリートブロック壁（間仕切り壁）は適切な仕様で設置されているか。
37	安全面	内装の仕様・劣化状況	内壁（内装材）	コンクリートブロック	鉄筋によりコンクリートブロック相互が緊結され、かつ、周囲が構造体等に適切に緊結されているか。
38	安全面	内装の仕様・劣化状況	内壁（内装材）	コンクリートブロック	コンクリートブロックのはらみ、欠損、ひび割れ、目地部の損傷は見当たらないか。
39	安全面	内装の仕様・劣化状況	内壁（内装材）	ステージ前部の壁	ビスや釘の浮き、ボードのはらみやずれ、汚れは見当たらないか。
40	安全面	内装の仕様・劣化状況	内壁（内装材）	ステージ前部の壁	下地材と構造体（鉄骨等）が緊結されているか。
41	安全面	非構造部材の耐震対策状況（内外装以外）	照明器具	吊り下げ形	照明器具の吊り材は支持材に緊結されているか。
42	安全面	非構造部材の耐震対策状況（内外装以外）	照明器具	吊り下げ形	落下防止対策がとられているか。
43	安全面	非構造部材の耐震対策状況（内外装以外）	照明器具	吊り下げ形	ビス等の取付金物に変形、腐食、緩みは見当たらないか。
44	安全面	非構造部材の耐震対策状況（内外装以外）	照明器具	直付け形	照明器具は支持材に緊結されているか。
45	安全面	非構造部材の耐震対策状況（内外装以外）	照明器具	直付け形	落下防止対策がとられているか。
46	安全面	非構造部材の耐震対策状況（内外装以外）	照明器具	直付け形	照明器具の取付部に変形、腐食、緩みは見当たらないか。
47	安全面	非構造部材の耐震対策状況（内外装以外）	照明器具	天井材埋込形	落下防止対策がとられているか。
48	安全面	非構造部材の耐震対策状況（内外装以外）	照明器具	天井材埋込形	照明器具の取付部に変形、腐食、緩みは見当たらないか。
49	安全面	非構造部材の耐震対策状況（内外装以外）	照明器具	天井材埋込形	照明器具周辺の天井材に変形やずれは見当たらないか。
50	安全面	非構造部材の耐震対策状況（内外装以外）	設備機器	放送機器・体育器具	放送機器や体育器具は支持材に緊結されているか。
51	安全面	非構造部材の耐震対策状況（内外装以外）	設備機器	放送機器・体育器具	取付金物の緩み、腐食、破損は見当たらないか。
52	安全面	非構造部材の耐震対策状況（内外装以外）	設備機器	空調室外機	空調室外機や給湯設備などは支持材に緊結されているか。
53	安全面	非構造部材の耐震対策状況（内外装以外）	設備機器	空調室外機	取付部に変形、腐食、破損は見当たらないか。
54	安全面	非構造部材の耐震対策状況（内外装以外）	テレビなど	天吊りテレビ・エアコン	天吊りのテレビ台及びエアコンが構造体に緊結されているか。
55	安全面	非構造部材の耐震対策状況（内外装以外）	エキスパンション・ジョイント	エキスパンション・ジョイント	エキスパンション・ジョイントの間隔は十分か。
56	安全面	非構造部材の耐震対策状況（内外装以外）	エキスパンション・ジョイント	エキスパンション・ジョイント	カバー材が適切な追従性能を有するか。
57	安全面	外装の仕様・劣化状況	屋上・屋根	屋上面	屋上面に劣化、損傷は見当たらないか。
58	安全面	外装の仕様・劣化状況	屋上・屋根	屋上周り（屋上面以外）	パラペットの立上り面に劣化、損傷は見当たらないか。
59	安全面	外装の仕様・劣化状況	屋上・屋根	屋上周り（屋上面以外）	笠木モルタル等に劣化、損傷は見当たらないか。
60	安全面	外装の仕様・劣化状況	屋上・屋根	屋上周り（屋上面以外）	金属笠木に劣化、損傷は見当たらないか。
61	安全面	外装の仕様・劣化状況	屋上・屋根	屋上周り（屋上面以外）	排水溝（ドレーンを含む）に劣化、損傷は見当たらないか。
62	安全面	外装の仕様・劣化状況	屋上・屋根	屋根（屋上面以外）	屋根の防火対策がとられているか。
63	安全面	外装の仕様・劣化状況	屋上・屋根	屋根（屋上面以外）	屋根に劣化、損傷は見当たらないか。
64	安全面	外装の仕様・劣化状況	屋上・屋根	機器、工作物（冷却等設備、広告塔等）	機器、工作物本体、接合部に劣化、損傷は見当たらないか。
65	安全面	外装の仕様・劣化状況	屋上・屋根	機器、工作物（冷却等設備、広告塔等）	支持部分等に劣化、損傷は見当たらないか。
66	安全面	防災機能の状況	避難路	避難路	避難路は確保されているか。
67	安全面	防災機能の状況	水	耐震性貯水槽	耐震性貯水槽は整備されているか。
68	安全面	防災機能の状況	水	浄水・耐震プール	浄水・耐震プールは整備されているか。
69	安全面	防災機能の状況	水	防災井戸	防災井戸は整備されているか。
70	安全面	防災機能の状況	水	貯水槽蛇口	貯水槽蛇口は設置されているか。
71	安全面	防災機能の状況	照明・電気・ガス	自家発電設備	自家発電設備は整備されているか。
72	安全面	防災機能の状況	照明・電気・ガス	蓄電池	蓄電池は整備されているか。
73	安全面	防災機能の状況	照明・電気・ガス	ガス変換器	ガス変換器は整備されているか。

74	安全面	防災機能の状況	照明・電気・ガス	燃料貯蔵・供給設備	燃料貯蔵・供給設備は整備されているか。
75	安全面	防災機能の状況	情報通信	防災無線	防災無線は整備されているか。
76	安全面	防災機能の状況	情報通信	衛星電話	衛星電話は整備されているか。
77	安全面	防災機能の状況	衛生	災害用トイレ	災害用トイレは設置されているか。
78	安全面	防災機能の状況	衛生	シャワー	シャワーは設置されているか。
79	安全面	防災機能の状況	備蓄	備蓄倉庫	備蓄倉庫は整備されているか。
80	安全面	防犯対策の状況	校門、囲障等	校門、囲障	校門、囲障（フェンス、植栽等）の破損はないか。
81	安全面	防犯対策の状況	校門、囲障等	外灯	外灯に破損、球切れ等はないか。
82	安全面	防犯対策の状況	監視装置	防犯カメラ	防犯カメラ等により、児童生徒の活動場所等を適切に監視できているか。
83	安全面	防犯対策の状況	校内伝達装置	インターホン、内線電話	インターホン、内線電話は適切に作動するか。
84	安全面	防犯対策の状況	校内伝達装置	非常ベル	非常ベルは適切に作動するか。
85	安全面	防犯対策の状況	校内伝達装置	緊急通報装置	緊急通報装置は適切に作動するか。
86	安全面	防犯対策の状況	校内伝達装置	校内放送設備	校内放送設備は適切に作動するか。
87	安全面	防犯対策の状況	警察等連絡装置	専用回線（警察）	警察への連絡手段は適切に確保されているか。
88	安全面	防犯対策の状況	警察等連絡装置	専用回線（自治体）	地方自治体への連絡手段は適切に確保されているか。
89	安全面	事故防止の対策状況	理科教室等	緊急用シャワー、洗眼装置	緊急用シャワー、洗眼装置を設置しているか。
90	安全面	事故防止の対策状況	理科教室等	換気設備	有効に換気設備を設置しているか。
91	安全面	事故防止の対策状況	屋内運動場（観覧席等）	腰壁、手すり	適切に腰壁・手すりを設置しているか。
92	安全面	事故防止の対策状況	廊下	鏡	衝突するおそれのある曲がり角等に鏡を設置しているか。
93	安全面	事故防止の対策状況	廊下	緩衝材	衝突するおそれのある部分に緩衝材を設置しているか。
94	安全面	事故防止の対策状況	廊下	防護柵	防護柵などにより物理的に開口部に近づけなくする等配慮しているか。
95	安全面	事故防止の対策状況	階段	側壁、手すり	転落防止の側壁、手すりを設置しているか。
96	安全面	事故防止の対策状況	階段	転落防止ネット	ネット等により転落を防止の措置を講じているか。
97	安全面	事故防止の対策状況	階段	防護柵	防護柵などにより物理的に開口部に近づけなくする等配慮しているか。
98	安全面	事故防止の対策状況	階段	側壁上部の突起	側壁の上部に突起を設けるなどの工夫をしているか。
99	安全面	事故防止の対策状況	窓・ガラス	安全ガラス、飛散防止フィルム等	安全ガラスや網入りガラス、合わせガラス、飛散防止フィルム等を有効に使用しているか。
100	安全面	事故防止の対策状況	窓・ガラス	防護柵	衝突のおそれのあるガラスに手すり、格子、フェンス等の防護柵を配置しているか。
101	安全面	事故防止の対策状況	天窓	防護柵	周囲に防護柵を設置しているか。
102	安全面	事故防止の対策状況	天窓	落下防護ネット	落下防護ネットを配置しているか。
103	安全面	事故防止の対策状況	出入口	面取り処理、カバー	面取り処理、カバー、緩衝材の設置等の工夫を行っているか。
104	安全面	事故防止の対策状況	出入口	ドアクローザー	ドアクローザーを設置しているか。
105	安全面	事故防止の対策状況	出入口	風除室	風除室を設けているか。
106	安全面	事故防止の対策状況	出入口	防火シャッター	挟まり防止の注意喚起装置を設置しているか。
107	安全面	事故防止の対策状況	床	滑りにくい材料	エンボス状のシートを床に張るなどの工夫をする。
108	安全面	事故防止の対策状況	壁・柱等	面取り処理、カバー、緩衝材	面取り処理、カバー、緩衝材の設置等の工夫を行っているか。
109	安全面	事故防止の対策状況	壁・柱等	掛け具への覆いなど	掛け具に覆いをしたり、壁面に窪みを作りその部分に設置するなど配慮をしているか。
110	安全面	事故防止の対策状況	学校用家具	面取り処理、カバー、緩衝材	面取り処理、カバー、緩衝材の設置等の工夫を行っているか。
111	安全面	事故防止の対策状況	学校用家具	固定	確実に固定するための配慮をしているか。
112	安全面	事故防止の対策状況	庇	立ち入りの制限	手すりや窓の開閉方式の工夫により立ち入りができないようにしているか。
113	安全面	事故防止の対策状況	屋上	手すり、防護柵	手すりや防護柵を適切に設置しているか。
114	安全面	事故防止の対策状況	屋上	塔屋	塔屋の一段目を高く設定するなどの配慮をしているか。
115	安全面	事故防止の対策状況	バルコニー	足掛り	足掛りとなるものを設置しないようにしているか。

116	安全面	事故防止の対策状況	バルコニー	上部の形状	上部に物が置けない形状にしているか。
117	安全面	事故防止の対策状況	点検口等	施錠	適切な施錠を行っているか。
118	安全面	事故防止の対策状況	プール（排水口）	排水口	蓋等をネジ、ボルト等で固定したり、吸い込み防止金具を設置しているか。
119	安全面	アスベスト含有建材の使用状況	成形板等（レベル3）	床、壁、天井等	アスベスト含有建材が使用されているか。
120	安全面	アスベスト含有建材の使用状況	保温材等（レベル2）	床、壁、天井等	アスベスト含有建材が使用されているか。
121	安全面	アスベスト含有建材の使用状況	吹き付け（レベル1）	床、壁、天井等	アスベスト含有建材が使用されているか。
122	安全面	アスベストの対策・劣化の状況	教室、煙突等	教室	アスベスト対策はできているか（使用していない、適切に処理されているなど）。
123	安全面	アスベストの対策・劣化の状況	教室、煙突等	煙突	アスベスト対策はできているか（使用していない、適切に処理されているなど）。
124	機能面	設備の仕様・劣化状況	受変電設備又は幹線設備	-	受変電設備、幹線設備は適切に作動するか。
125	機能面	設備の仕様・劣化状況	空調設備	-	温熱環境は適切に保たれているか。
126	機能面	設備の仕様・劣化状況	空調設備	-	空調換気設備は適切に作動するか。
127	機能面	設備の仕様・劣化状況	給排水衛生設備	-	給排水衛生設備は適切に作動するか。
128	機能面	設備の仕様・劣化状況	ライフライン	水道管、ガス管、電気配管など	ライフラインの更新の容易性は確保されているか。
129	機能面	トイレの仕様劣化状況	トイレ	-	衛生は保たれているか（臭い、汚れ等）。
130	機能面	トイレの仕様劣化状況	トイレ	便器、配管	トイレは詰まりやすすかないか。
131	機能面	トイレの仕様劣化状況	トイレ	床	トイレは乾式の床となっているか。
132	機能面	トイレの仕様劣化状況	トイレ	トイレブース、便器	トイレブース、便器は破損していないか。
133	機能面	学習環境等の整備状況	教室等	-	適切な学習スペースが量的に過不足なく確保されているか。
134	機能面	学習環境等の整備状況	教室等	-	「総合的な学習の時間」や「少人数学習」など、学習内容・学習形態等の進展に対応した学習環境となっている
135	機能面	学習環境等の整備状況	教室等	-	地域との連携のための施設・スペースは整備されているか。
136	機能面	ICT設備の仕様活用状況	教室等	-	教育用・校務用コンピュータは設置されているか。
137	機能面	ICT設備の仕様活用状況	教室等	-	校内LANは配備されているか。
138	機能面	バリアフリー状況	玄関、廊下等	スロープ	スロープ等により段差の解消を適切に行っているか。
139	機能面	バリアフリー状況	階段等	手すり	手すりは適切に設置されているか。
140	機能面	バリアフリー状況	トイレ	車いす使用者対応トイレ	車いす使用者対応トイレは設置されているか。
141	環境面	断熱性能	開口部	窓、サッシ、ドアなど	開口部に断熱性能や気密性能の高い材を用いているか。
142	環境面	断熱性能	内装、外装	屋根、天井、壁、床など	内装、外装に断熱性能や気密性能の高い材を用いているか。
143	環境面	日射遮蔽性能	開口部	窓、サッシ、ドアなど	開口部に日射遮蔽性能の高い材を用いているか。
144	環境面	日射遮蔽性能	内装、外装	屋根、天井、壁、床など	内蔵、外装に日射遮蔽性能の高い材を用いているか。
145	環境面	遮音性能	開口部	窓、サッシ、ドアなど	開口部に遮音性能の高い材を用いているか。
146	環境面	遮音性能	内装、外装	屋根、天井、壁、床など	内装、外装遮音性能の高い材を用いているか。
147	環境面	設備の高効率化	空調設備	-	高効率の設備を用いているか。
148	環境面	設備の高効率化	照明設備	-	高効率の設備を用いているか。
149	環境面	木材利用の状況	内壁（内装材）	内装など	構造躯体や内装等に木材を活用しているか。



# 參考資料

## 5. 参考資料

### (1) 参考文献

- ・ インフラ長寿命化基本計画の概要
- ・ 公共施設等総合管理計画策定指針の概要
- ・ 文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）の概要
- ・ 学校施設の老朽化対策について～学校施設における長寿命化の推進～（概要）
- ・ 学校施設の長寿命化改修の手引（概要）
- ・ 参考文献URL

### (2) 国庫補助制度等

- ・ 公立学校施設整備事業の概要
- ・ 長寿命化改良事業の概要
- ・ 大規模改造（老朽）事業の概要
- ・ 学校施設の個別施設計画策定支援事業
- ・ 学校施設老朽化対策先導事業
- ・ 地方財政措置等について

### (3) 「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」の概要等

- ・ 学校施設の長寿命化計画策定に係る手引（概要）
- ・ 校施設の長寿命化計画策定に係る手引作成検討会について
- ・ 審議経過

(1) 参考文献

- 個別施設毎の長寿命化計画を核として、メンテナンスサイクルを構築
- メンテナンスサイクルの実行や体制の構築等により、トータルコストを縮減・平準化
- 産学官の連携により、新技術を開発・メンテナンス産業を育成

### 1. 目指すべき姿

- 安全で強靱なインフラシステムの構築**
  - ▶ メンテナンス技術の基盤強化、新技術の開発・導入を通じ、厳しい地形、多様な気象条件、度重なる大規模災害等の脆弱性に対応
  - 【目標】老朽化に起因する重要インフラの重大事故ゼロ（2030年）等
- 総合的・一体的なインフラマネジメントの実現**
  - ▶ 人材の確保も含めた包括的なインフラマネジメントにより、インフラ機能を適正化・維持し、効率的に持続可能で活力ある未来を実現
  - 【目標】適切な点検・修繕等により行動計画で対象とした全ての施設の健全性を確保（2020年頃）等
- メンテナンス産業によるインフラビジネスの競争力強化**
  - ▶ 今後のインフラビジネスの柱となるメンテナンス産業で、世界のフロントランナーの地位を獲得
  - 【目標】点検・補修等のセンサー・ロボット等の世界市場の3割を獲得（2030年）

### 2. 基本的な考え方

- インフラ機能の確実かつ効率的な確保**
  - ▶ メンテナンスサイクルの構築や多段階の対策により、安全・安心を確保
  - ▶ 予防保全型維持管理の導入、必要性の低い施設の統廃合等によりトータルコストを縮減・平準化し、インフラ投資の持続可能性を確保
- メンテナンス産業の育成**
  - ▶ 産学官連携の下、新技術の開発・積極公開により民間開発を活性化させ、世界の最先端へ誘導
- 多様な施策・主体との連携**
  - ▶ 防災・減災対策等との連携により、維持管理・更新を効率化
  - ▶ 政府・産学界・地域社会の相互連携を強化し、限られた予算や人材で安全性や利便性を維持・向上

### 3. 計画の策定内容

- インフラ長寿命化計画（行動計画）**
  - ▶ 計画的な点検や修繕等の取組を実施する必要性が認められる全てのインフラでメンテナンスサイクルを構築・継続・発展させるための取組の方針（対象施設の現状と課題／維持管理・更新コストの見直し／必要施策に係る取組の方向性 等）
- 個別施設毎の長寿命化計画（個別施設計画）**
  - ▶ 施設毎のメンテナンスサイクルの実施計画（対策の優先順位の考え方／個別施設の状態等／対策内容と時期／対策費用 等）

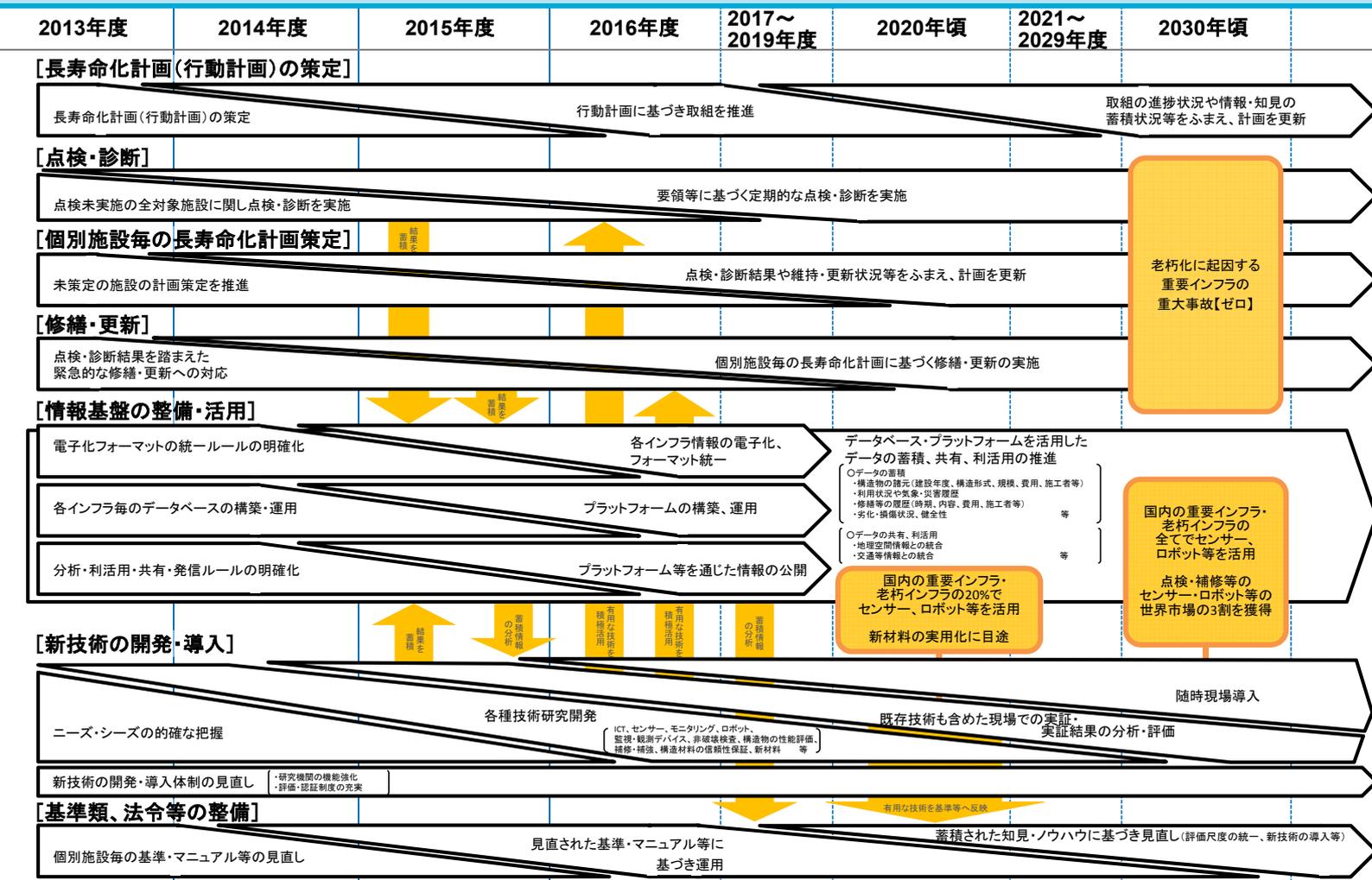
### 4. 必要施策の方向性

点検・診断	定期的な点検による劣化・損傷の程度や原因の把握 等
修繕・更新	優先順位に基づく効率的かつ効果的な修繕・更新の実施 等
基準類の整備	施設の特性を踏まえたマニュアル等の整備、新たな知見の反映 等
情報基盤の整備と活用	電子化された維持管理情報の収集・蓄積、予防的な対策等への利活用 等
新技術の開発・導入	ICT、センサー、ロボット、非破壊検査、補修・補強、新材料等に関する技術等の開発・積極的な活用 等
予算管理	新技術の活用やインフラ機能の適正化による維持管理・更新コストの縮減、平準化 等
体制の構築	[国]技術等の支援体制の構築、資格・研修制度の充実 [地方公共団体等]維持管理・更新部門への人員の適正配置、国の支援制度等の積極的な活用 [民間企業]入札契約制度の改善 等
法令等の整備	基準類の体系的な整備 等

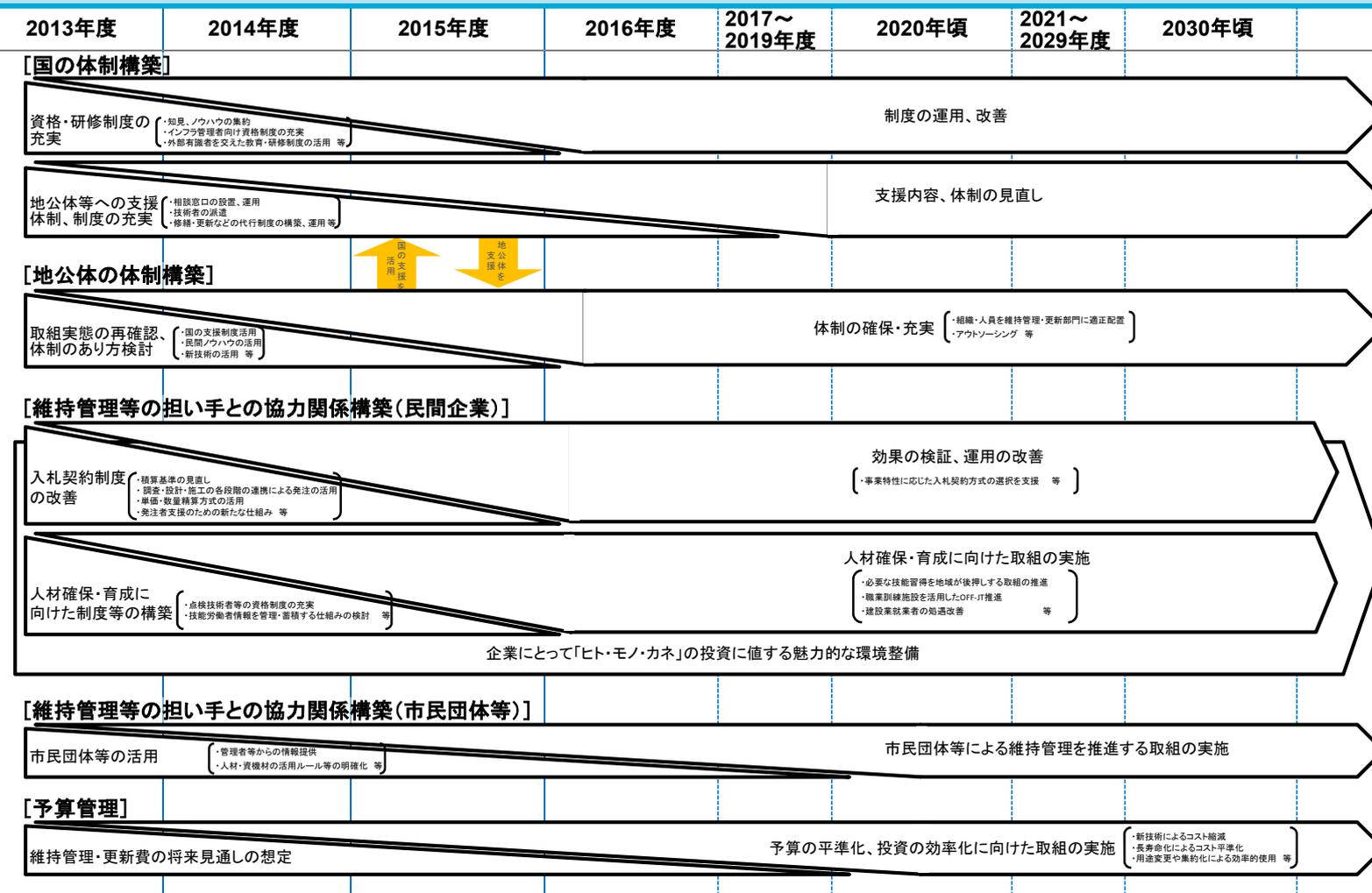
### 5. その他

- ▶ 戦略的なインフラの維持管理・更新に向けた産学官の役割の明示
- ▶ 計画のフォローアップの実施

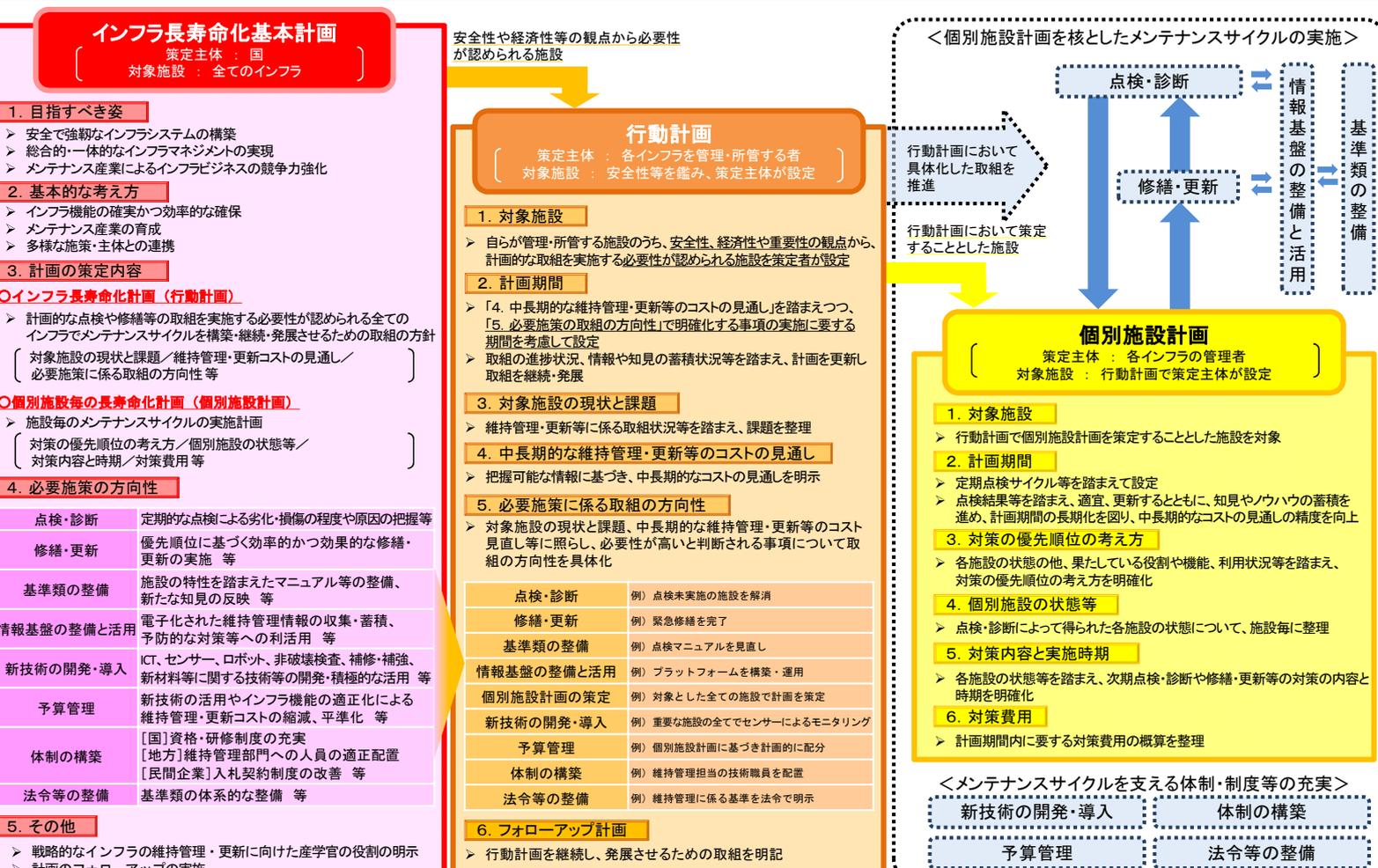
## インフラ長寿命化基本計画(ロードマップ) ※本文より抜粋



# インフラ長寿命化基本計画(ロードマップ) ※本文より抜粋



## インフラ長寿命化基本計画等の体系(イメージ)



# 公共施設等総合管理計画策定指針の概要①

## 公共施設等総合管理計画の内容

### 1 所有施設等の現状

全ての公共施設等を対象に、以下の項目などについて、現状や課題を客観的に把握・分析。

- 老朽化の状況や利用状況をはじめとした公共施設等の状況
- 総人口や年代別人口についての今後の見通し
- 公共施設等の維持管理・更新等に係る中長期的な経費やこれらの経費に充当可能な財源の見込み

### 2 施設全体の管理に関する基本的な方針

- 計画期間  
10年以上とすることが望ましい。
- 全庁的な取組体制の構築及び情報管理・共有方策  
全ての公共施設等の情報を管理・集約する部署を定めるなどして取り組むことが望ましい。
- 現状分析を踏まえた基本方針  
現状分析を踏まえ、今後の公共施設等の管理に関する基本方針を記載。
- バージョンアップ  
計画の進捗状況等についての評価の実施について記載。評価結果等の議会への報告や公表方法についても記載することが望ましい。なお、今後は、管理を行うに際し基礎となる情報として、固定資産台帳等を利用していくことが望ましい。

### 3 地方財政措置

- 計画策定に要する経費について、平成26年度からの3年間にわたり特別交付税措置(措置率 1/2)
- 計画に基づく公共施設等の除却について、地方債の特例措置を創設(地方財政法改正)  
( 特例期間 平成26年度以降当分の間、地方債の充当率 75%(資金手当)  
地方債計画計上額 300億円(一般単独事業(一般)の内数) )

# 公共施設等総合管理計画策定指針の概要②

## 公共施設等総合管理計画に基づく老朽化対策の推進イメージ

### 公共施設等の管理

- 長期的視点に立った老朽化対策の推進
- 適切な維持管理・修繕の実施
- トータルコストの縮減・平準化
- 計画の不断の見直し・充実

### まちづくり

- PPP/PFIの活用
- 将来のまちづくりを見据えた検討
- 議会・住民との情報及び現状認識の共有

### 国土強靱化

- 計画的な点検・診断
- 修繕・更新の履歴の集積・蓄積
- 公共施設等の安全性の確保
- 耐震化の推進

# インフラ長寿命化計画の体系

インフラ長寿命化基本計画  
(基本計画)【国】

(行動計画) 【国】

各省庁が策定

(個別施設計画)

道路

河川

学校

(行動計画) 【地方】

公共施設等総合管理計画

(個別施設計画)

道路

河川

学校

文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）  
の概要（P）

# 「学校施設の老朽化対策について～学校施設における長寿命化の推進～」 (概要)

平成25年3月 学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議

## 第1部 学校施設老朽化対策ビジョン

### I 学校施設を取り巻く現状と課題

#### 1. 学校施設の役割

- 子供たちの学習・生活の場 ○地域コミュニティや防災の拠点
- 公共施設の約4割を占める施設

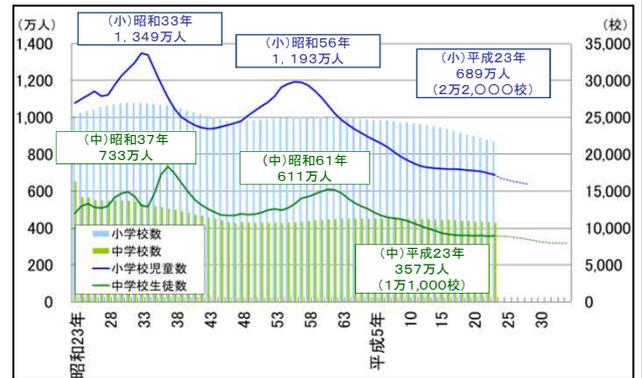
#### 2. 学校施設の現状

##### (1) 学校を取り巻く状況

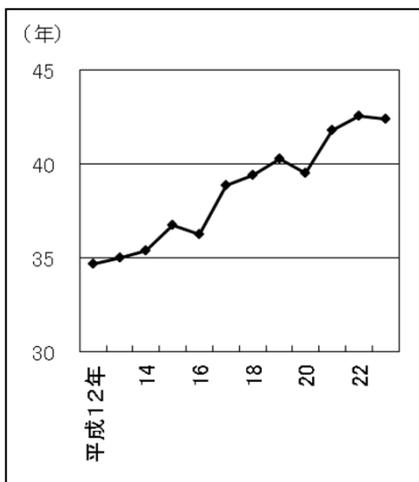
- 少子化による児童生徒数及び学校数の減少。今後も更に減少する見込み。
- 一方、学校施設面積は近年、ほぼ横ばいの状況。

##### (2) 老朽施設の増加

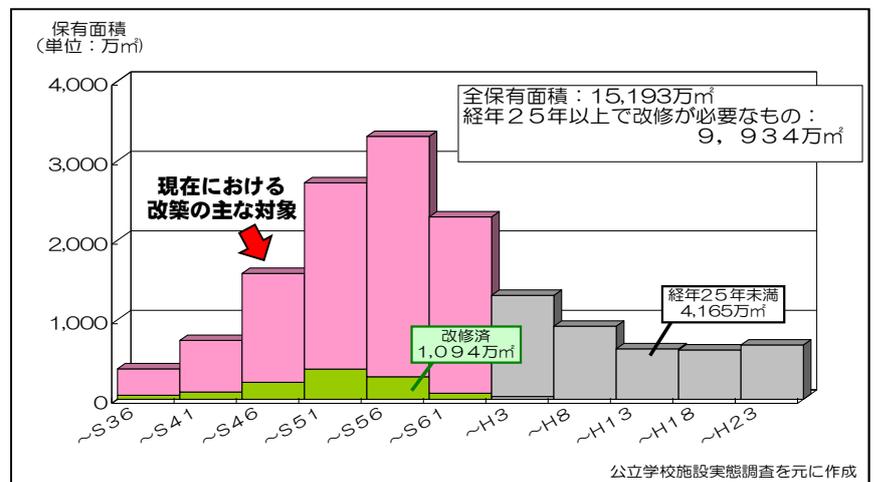
- 小中学校は、昭和40年代後半から50年代にかけての児童生徒数の急増期に多くが整備。非木造施設約1億5,000万㎡のうち築25年以上で改修を要する施設は約7割。
- 学校施設の改築までの平均年数は約42年であり、現在は昭和44年頃建築の学校を改築。昭和52年～56年にかけて3,000万㎡超の施設が整備されているため、近い将来、これらの老朽化対策を多額の費用を掛けて行うことが必要。



児童生徒数の小中学校数の推移



公立小中学校(RC造)の改築までの平均年数



公立小中学校の経年別保有面積(非木造校舎・体育館・寄宿舎)

##### (3) 地方公共団体の認識

- アンケート調査では、老朽化対策について、約7割の市区町村が不十分又はやや不十分と回答。今後特に重要な課題として「老朽化した施設の再生」と回答した市区町村が最も多い。

#### 3. 老朽化対策の必要性

- 安全面：外壁・窓枠の落下、構造体としての強度の低下  
(安全面での不具合：約1万4,000件(H23))
- 機能面：雨漏り、設備機器や配管の破損、トイレの衛生やバリアフリー、近年の教育内容・方法への不適用  
(機能面での不具合：約3万件(H23))
- 環境面：省エネ化されておらず、エネルギーの無駄が大きい
- 財政面：今後老朽施設が大幅に増加し、膨大な更新費用が必要



(左)落下したモルタル (右)劣化による配管破損

## Ⅱ 老朽化対策の基本的考え方

### 1. 目指すべき姿

○安全・安心な施設環境の確保 ○教育環境の質的向上 ○地域コミュニティの拠点形成

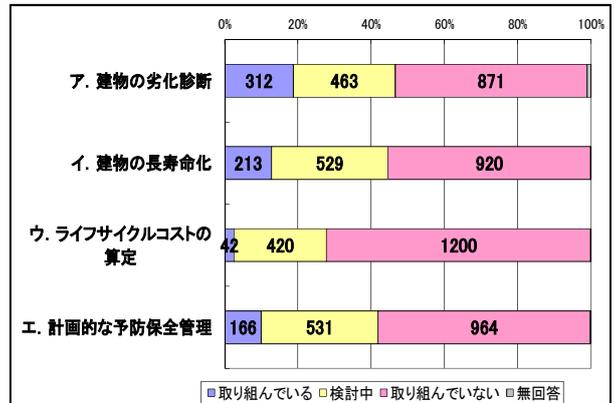
### 2. 施策の方向性

#### (1) 計画的整備

- 「事後保全型」から「予防保全型」管理への転換
- 劣化状況，教育内容への適応状況などの把握
- 改修等の実施時期や規模などを定めた中長期的な整備計画の策定

#### (2) 長寿命化

- 現在は平均約42年で改築。しかし，70年～100年以上の長寿命化も技術的には可能。
- 厳しい財政状況の下では，改築より安価な長寿命化改修へと転換することが必要。  
その際，施設の耐久性を高めるとともに，近年の教育内容・方法への適応や省エネ化，バリアフリー化など現代の社会的要請に応じた整備を行うことが重要。



地方公共団体における老朽化対策の取組状況

【参考】今後30年間で必要となる更新費用の試算

従来の改築中心の整備：約38兆円 → 長寿命化改修中心の整備：約30兆円

※試算結果については建築技術の進展や保有面積の減少の程度等により変動する余地があることに注意が必要。

#### (3) 重点化

- 児童生徒数が更に減少することが予想される中，施設規模の適正化を図ることが必要。  
余裕教室などの空きスペースの有効活用を進めるとともに，地域の実情に応じ，公共施設との複合化や減築を行うことも必要。

## Ⅲ 地方公共団体における再生整備の具体的な進め方

### 1. PDCAサイクルによる施設整備

(P) 施設の劣化状況など現状の把握，中長期的な整備計画の策定

(D) 改修等の実施，適切な維持管理の実施 (C) 継続的な評価の実施 (A) 改善点の整理

### 2. 組織体制の充実

- 営繕担当部局の協力を得つつ，組織体制を見直し

## Ⅳ 国による推進方策

1. 計画的整備の推進：中長期的な整備計画の策定支援，技術面での支援体制の構築

2. 長寿命化の推進：長寿命化改修の具体的手法を示した手引の作成

国庫補助事業の改善（「長寿命化改良事業」の創設）

3. 重点化の推進：劣化度や環境性能などの評価指標の開発

必要面積（国庫補助の基準となる面積）の見直し

## 第2部 先進的な取組事例

※地方公共団体が老朽化対策に取り組む際の参考となる26事例を掲載。

1. 学校施設の現状把握

（名古屋市）築40年以上の施設の耐久性を調査

2. 学校施設の長寿命化

（福岡県八女市）築40年の屋内運動場を新築同様に改修。建築コストを削減

3. 中長期計画の策定

（さいたま市）40年間の将来推計に基づく施設管理計画を策定。市民の理解を得るためのシンポジウム等を開催

4. 学校施設の有効活用

（埼玉県志木市）学校と公民館・図書館を複合化

5. 改修方式の工夫によるコスト削減等

（大津市）校舎の2階を減築し，耐震性能を向上



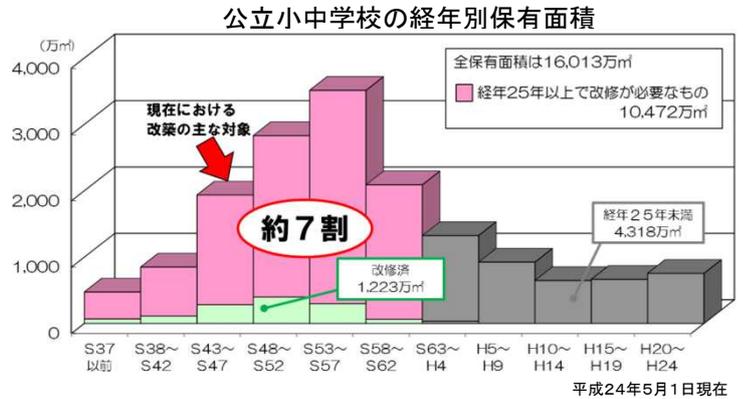
# 学校施設の長寿命化改修の手引(概要)

## 学校のリニューアルで子供と地域を元気に!

平成26年1月  
文部科学省

### 背景

公共施設の約4割を占める学校施設のうち、公立小中学校施設については**建築後25年以上を経過した建物が保有面積の約7割**を占めるなど、老朽化が深刻。国・地方とも厳しい財政状況の下、**限られた予算でできる限り多くの学校について、安全面や機能面の改善を図ることが喫緊の課題。**



平成25年3月

今後の老朽化対策の方向性として、長寿命化改修の積極的な採用を提言。

※「学校施設の老朽化対策について～学校施設における老朽化対策の推進～」

平成26年1月

**長寿命化改修の具体的手法等について体系的に整理した手引**を取りまとめ。

※「学校施設の長寿命化改修に係る手引作成検討会」(主査:上野淳 首都大学東京理事)において検討

## 1. 長寿命化改修とは

学校施設の老朽化対策を効率的・効果的に進めるための新しい改修方法。従来のように建築後40年程度で建て替えるのではなく、コストを抑えながら建て替え同等の教育環境の確保が可能。

## 2. 長寿命化改修のメリット

### ① 工事費用の縮減, 工期の短縮が可能

- ・構造体(柱やはり)の工事が大幅に減少するため、工事費用が建て替えと比較して**4割程度縮減**。
- ・工期も大幅に短縮



環境に配慮した学校施設として再生

### ② 建て替えた場合と同等の教育環境の確保が可能

- ・ライフラインや仕上げ, 機能の一新が可能
- ・間取りを変更することも可能



改修に併せて多目的に活用できるワークスペースを整備

### ③ 廃棄物量が少ない

- ・排出する廃棄物が少なく環境負荷が少ない
- ・廃棄物処理に係るコストの削減が可能

### 参考情報

平成25年、補助制度「長寿命化改良事業」を新設。(1/3補助)  
地方財政措置の実施により地方公共団体の実質的な負担割合は26.7%となる。

### 3. 長寿命化改修の具体的な手法

#### この手引の特徴

- ・長寿命化改修を実施するための具体的な手法やノウハウに関する初めての手引
- ・長寿命化改修に関する37の問いに対し、一問一答形式で解説
- ・図面や先進事例に関する写真を多数掲載

#### (問いの一例)

##### 基本的な事項

- ✓ どの程度工事費を下げるできますか？
- ✓ 法定耐用年数を超えて使用することはできますか？
- ✓ 法令上どのような点に留意すればよいですか？

##### 耐久性向上のための留意事項

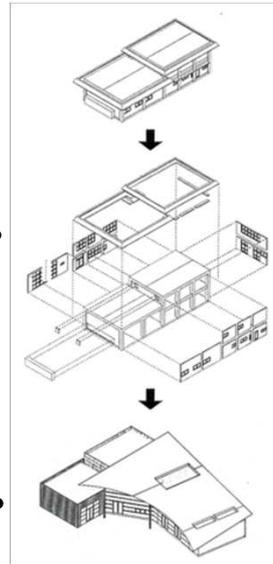
- ✓ 鉄筋コンクリートやライフラインの老朽化対策はどのように行いますか？
- ✓ 木の学校に改修するにはどうすればよいですか？

##### 機能向上のための留意事項

- ✓ 環境を考慮した学校施設にするため、どのような点に留意すればよいですか？
- ✓ 少人数指導のためのスペースを設ける場合、どのような点に留意すればよいですか？
- ✓ トイレ改修を行う場合、どのような点に留意すればよいですか？
- ✓ バリアフリー化や他の公共施設と複合化する場合、どのような点に留意すればよいですか？

##### その他

- ✓ どのような補助制度が活用できますか？



(左)  
長寿命化改修のイメージ図  
(一部増築する事例)

(下)  
鉄筋コンクリートの長寿命化工事  
(中性化対策)



Q: 全37問

【例】 長寿命化改修 各論 7. 多様な学習内容・学習形態による活動が可能となる環境への整備

Q024 少人数指導のためのスペースを設ける場合、どのような点に留意すればよいですか？

A: 考え方、対応方法などを端的に回答

【詳細な説明】

【事例1】 福岡市立西宮南小学校

【事例2】 福岡市立西宮南小学校

先進事例の図面や写真など

手引のイメージ

#### 長寿命化改修の先進事例を多数掲載



オープンスクール・エコスクールに改修した事例



屋内運動場を地域の防災拠点として再生した事例



内装木質化により明るく暖かみのある教室に改修した事例

※文部科学省のHPに全文掲載しています。

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shisetu/027/toushin/1343009.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/027/toushin/1343009.htm)

# 手引の構成

## 第1章 長寿命化改修の基本的な事項

長寿命化改修の意義や建て替えとの工事費の比較など、基礎的な事項について解説。あわせて、長寿命化改修が適さない建物などについても記載されており、老朽施設を保有する全ての地方公共団体に読んでいただきたい内容。

## 第2章 長寿命化改修 各論

### 1. 躯体の老朽化対策

鉄筋コンクリートに生じる劣化現象とその対策方法について解説。

耐久性向上編

### 2. 外壁・屋上の老朽化対策

外壁や屋上防水の劣化現象とその対策方法について解説。あわせて、耐久性が高く、劣化に強い素材について解説。

### 3. 設備の老朽化対策

ライフラインの劣化状況の調査・診断方法、老朽化対策について解説。あわせて、維持管理しやすい改修方法について解説。

### 4. 安全・安心な施設環境の確保や地域コミュニティの拠点形成のための改修

これまでに取りまとめられた、安全・安心な施設環境の確保や、地域コミュニティ拠点形成に資する報告書を紹介。

機能向上編

### 5. 環境に配慮した改修

環境を考慮した学校施設や環境教育に活用できる学校施設に改修するための留意事項について解説。

### 6. 多様な学習内容・学習形態による活動が可能となる環境への改修

少人数指導のためのスペースを設けたり、多目的なスペースを設けたりする場合など、多様な学習内容・学習形態による活動が可能となる環境に改修するための留意事項について解説。あわせて、バリアフリー化やトイレ改修、他の公共施設と複合化する場合の留意事項について解説。

その他

### 7. 活用できる補助制度

関連する補助制度について解説。

## 第3章 長寿命化改修と併せて検討したいこと

建物を長く使用するための予防保全についての考え方や改修工事中の教育環境の確保方法など、長寿命化改修と併せて検討したいことについて解説。

## 参考資料

先進的な取組事例を紹介。改修の概要や効果等について、図面や写真等を交えて解説。

◆参考文献のURL◆

○インフラ長寿命化基本計画

(平成25年11月 インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議)

[http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/infra\\_roukyuuka/](http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/infra_roukyuuka/)

○公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針

(平成26年4月22日 総務省)

<http://www.soumu.go.jp/iken/koushinhiyou.html>

○文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）

(平成27年3月 文部科学省)

<http://>

○学校施設の老朽化対策について～学校施設における長寿命化の推進～

(平成25年3月 学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shisetu/013/toushin/1331925.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/013/toushin/1331925.htm)

○学校施設の長寿命化改修の手引～学校のリニューアルで子供と地域を元気に！～

(平成26年1月 文部科学省)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shisetu/027/toushin/1343009.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/027/toushin/1343009.htm)

## (2) 国庫補助制度等

## 公立学校施設整備事業の概要

### 1. 趣旨

学校教育の機会均等の確保と水準の維持向上を図るため、「義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律」（施設費負担法）等に基づき、公立学校建物（公立小中学校、特別支援学校、幼稚園の校舎・体育館等）の施設整備に要する経費の一部を国庫補助することにより学校教育の円滑な実施を担保する。

### 2. 主な国庫補助事業・負担（算定）割合

事業名	負担(算定)割合	事業の内容
新增築	1/2	学校建物（校舎、体育館等）を新しく建設又は増築（教室不足の解消、学校統合）
改築	1/3	構造上危険な状態にある建物、耐震力不足の建物、津波浸水想定区域内の移転又は高層化を要する建物等
	1/2（嵩上げ）	Is値（※）が0.3未満の建物のうち、やむを得ない理由により補強が困難なもの
	1/2	南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域における集団移転促進事業に関連する学校建物の高台移転改築
地震補強	1/2（嵩上げ）	地震による倒壊の危険性があるもの（Is値0.3～0.7未満）
	2/3（嵩上げ）	地震による倒壊の危険性が高いもの（Is値0.3未満）
大規模改造等	1/3 （統合改修:1/2）	エコ改修や老朽化に伴う補修など、既存の学校建物を、建て替えずに改修（老朽改修、統合改修、トイレ改修、空調設置、障害児対策等）
長寿命化改良	1/3	構造体の劣化対策を要する建築後40年以上の建物の耐久性を高めるとともに、現代の社会的要請に応じる改修
防災機能強化	1/3	避難所として必要な、学校施設の防災機能強化（非構造部材の耐震化、避難経路、備蓄倉庫の整備、避難所指定校への自家発電設備の整備、等）
武道場	1/3	中学校に柔道場、剣道場等を整備
太陽光発電等設置	1/2	太陽光発電等の再生可能エネルギーの整備（太陽光パネルの設置、太陽熱利用、風力発電の整備、太陽光パネル既設置校への蓄電池の整備）
その他	1/3	屋外環境（グラウンド）、木の教育環境、学校プール、社会体育施設、学校給食施設、高校の産業教育施設等の整備、特別支援学校の用に供する既存施設の改修

※Is値（構造耐震指標）：建物の耐震性能を表す指標。Is値が大きいほど耐震性が高い。

Is値0.3未満 大規模な地震（震度6強以上）に対して倒壊または崩壊の危険性が高い。  
Is値0.3～0.6未満 大規模な地震に対して倒壊または崩壊の危険性がある。  
Is値0.6以上 大規模な地震に対して倒壊または崩壊の危険性が低い。

新增築 : 公立学校施設整備費負担金  
 新增築以外 : 学校施設環境改善交付金

# 長寿命化改良事業の概要

## 【概要】

○従来、改築(建て替え)していた老朽施設の再生を図るため、構造体の長寿命化やライフラインの更新などにより建物の耐久性を高めるとともに、省エネ化や多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供など現代の社会的要請に応じた改修を支援

【対象校】 幼稚園、小学校、中学校、中等教育学校（前期課程）、特別支援学校

【対象建物】 校舎、屋内運動場、寄宿舎

【算定割合】 1 / 3

※ 併せて改築と同様の地方財政措置により、地方自治体の実質的な負担割合は26.7%

【補助要件】 構造体の劣化対策を要する建築後40年以上経過した建物

下限額：7,000万円（小規模校1,000万円、幼稚園400万円）

1

# 大規模改造（老朽）事業の概要

## 【概要】

○経年により発生する学校建物の損耗、機能低下に対する復旧措置や、教育環境の改善を図り、学校教育の円滑な実施に資するとともに、建物の耐久性の確保を図る改修を支援

【対象校】 幼稚園、小学校、中学校、中等教育学校（前期課程）、特別支援学校

【対象建物】 校舎、屋内運動場、寄宿舎

【算定割合】 1 / 3（財政力指数が1.0を超える設置者にあっては 2 / 7）

【補助要件】 建築後20年以上の建物の外部及び内部の両方を同時に全面的※に改造する工事

※建物全体の延べ床面積の約70%以上

上限額：2億円（過去急増市町村にあっては3億円）

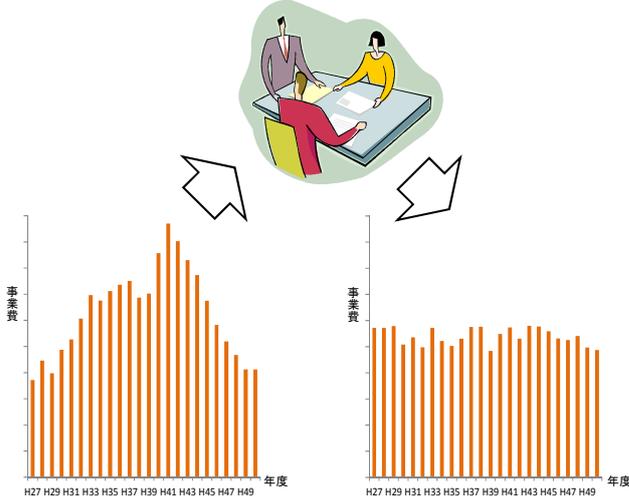
下限額：7,000万円（小規模校1,000万円、幼稚園400万円）

# 学校施設の個別施設計画策定支援事業

27年度予算(案)額:6,627千円(新規)

- 現在、建築後25年以上を経過した公立学校施設が約7割あるなど、施設の老朽化が深刻な状況
- 「インフラ長寿命化基本計画」(平成25年11月)において、各地方公共団体が学校等の個別施設毎の長寿命化計画(個別施設計画)を策定することとされた
- 本事業により、地方公共団体が学校施設の個別施設計画を策定する取組を支援

## 中長期的な長寿命化計画(個別施設計画)の策定



**老朽更新需要の縮減・平準化を実現**

### 【事業内容】

- ・全国5地域程度の自治体において、域内の個々の学校施設に関する中長期的な長寿命化計画(個別施設計画)を策定する取組を支援
- ・学校設置者、防災部局、都市計画部局、学校関係者、地域住民、専門家等による議論を経て、計画を策定

### 【補助内容】

- ・個別施設計画策定に係る費用について財政支援(10/10)

## 学校施設老朽化対策先導事業(平成27年度予算(案)額:4,734千円)

- ①100年学校モデル(建築後100年程度使用することを目指した改修モデル)
- ②優れたリニューアル改修モデル(多様な学習方法等への適合や省エネ化等の現代の社会的要請に対応した改修モデル)
- ③複合化・減築モデル(他の公共施設との複合化や減築を利用した改修モデル)

### <平成25年度採択実績>

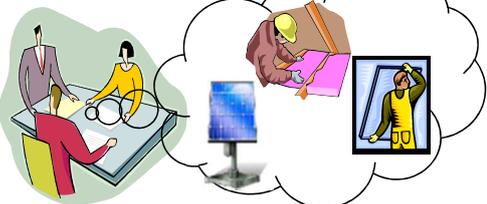
- ・釧路市立大楽毛中学校
- ・習志野市立大久保小学校
- ・世田谷区立深沢中学校
- ・生駒市立桜ヶ丘小学校

### <平成26年度採択実績>

- ・川崎市立菅生小学校
- ・堺市立宮園小学校

### 3か年事業の初年度

#### 基本計画の策定



### 【事業内容】

全国2地域程度の自治体において、学校設置者、学校関係者、地域住民、設計者等を交え、長寿命化改修の内容に関するワークショップの実施

### 【補助内容】

基本計画の策定に係る費用について財政支援(10/10)

### 3か年事業の2年目

#### 基本設計・実施設計の実施



### 【事業内容】

初年度に実施したワークショップの結果を踏まえ、長寿命化改修の基本設計と実施設計を実施

※設計費は工事費に算入

【補助内容】公立学校施設環境改善交付金による財政支援

### 3か年事業の最終年度

### 【事業内容】

実施設計に基づき、長寿命化改修工事の実施

補助率 1/3

#### 長寿命化改修工事の実施



- ・事業の優先採択
- ・類似工事の実績を勘案し予算の範囲内で単価を加算)

## 地方財政措置等について

### (1) 集約化・複合化事業に係る地方債措置

#### 【対象】

公共施設等総合管理計画に基づいて実施される既存の公共施設の集約化・複合化事業であって、全体として延床面積が減少するもの（庁舎等の公用施設や公営住宅、公営企業施設等は対象外）

#### 【充当率等】

- ・ 充当率：90%、交付税算入率：50%
- ・ 期間：平成29年度まで

### (2) 転用事業に係る地方債措置（地域活性化事業債）

#### 【対象】

公共施設等総合管理計画に基づいて実施される既存の公共施設等の転用事業（転用後の施設が庁舎等の公用施設、公営住宅、公営企業施設等である場合は対象外）

#### 【充当率等】

- ・ 充当率：90%、交付税算入率：30%
- ・ 期間：平成29年度まで

### (3) 公共施設等の除却についての地方債の特例措置（平成26年度創設、継続）

- ・ 充当率：75%（資金手当）

### (4) その他

- ・ 地方交付税の単位費用積算基礎において、平成26年度の場合、小学校費等に「施設設備保守点検料」「施設維持管理等委託」「建物維持修繕費」を計上、包括算定経費に「改修等事業費」等を計上

(3) 「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」の概要等

# 学校施設の長寿命化計画策定に係る手引（概要）

○平成25年11月に策定された「インフラ長寿命化基本計画」において、各インフラ管理者が個別施設毎の具体的な対応方針を定める計画として個別施設毎の長寿命化計画（個別施設計画）をできるだけ早期に策定することとされた。

○地方公共団体が、老朽化した学校施設に係る中長期的な整備計画の策定を迅速かつ効率的に進められるよう、その具体的な手法や留意事項をまとめた手引を作成。

※ 学校施設の長寿命化計画策定に係る手引作成検討会（主査：上野淳 首都大学東京理事）において検討し、平成27年3月に取りまとめ

## ○ 総論

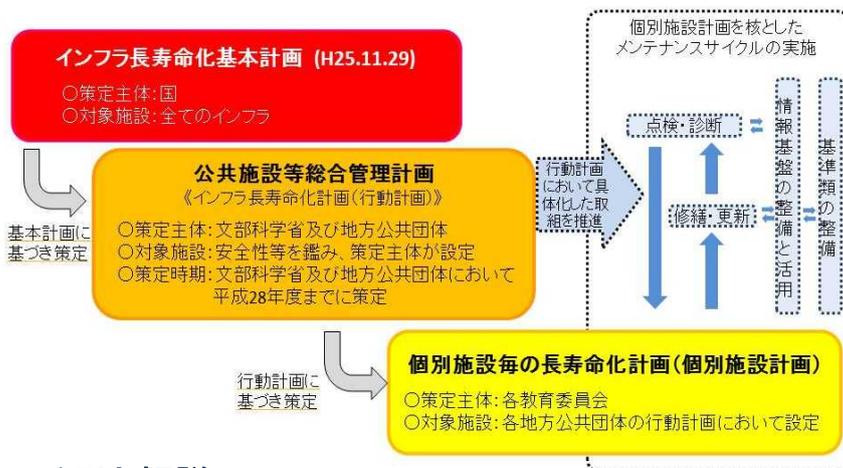
### ◆学校施設の長寿命化計画とは

平成25年11月に策定された「インフラ長寿命化基本計画」において、各インフラ管理者が策定することとされた「個別施設計画」に当たるもの

### ◆計画策定の目的

中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、学校施設に求められる機能・性能を確保

### 【インフラ長寿命化基本計画の体系】



## ○ 学校施設の長寿命化計画策定の手引と解説

### ◆ポイント

学校施設の長寿命化計画に、最低限盛り込むべき項目と押さえておくべきポイントを端的に記載。

### ◆解説

ポイントとして記載した内容の具体的な考え方や検討方法、項目設定上考慮すべき点等を解説。

### ◆事例

計画策定の上で参考となる既存の計画等の事例について幅広く紹介。

### 【学校施設の長寿命化計画策定のメリット】

（学校施設の現状）

- 築25年以上で改修を要する施設が約7割  
⇒安全上、機能上の問題点
- 今後見込まれる膨大な老朽施設の更新需要
- 国・地方ともに厳しい財政状況
- 児童生徒数の減少

### 長寿命化計画の策定

- 子供たちにとってよりよい教育環境の確保
- 効率的・効果的な老朽施設の再生によるトータルコストの縮減・予算の平準化
- 今後の方針の共有による学校 関係者・地域住民の理解の促進

### <学校施設の長寿命化計画に盛り込むべき項目>

- 学校施設の長寿命化計画の背景・目的
- 学校施設の目指すべき姿
- 学校施設の実態
- 学校施設整備の基本的な方針
- 基本的な方針を踏まえた施設整備の水準
- 長寿命化の実施計画
- 長寿命化計画の継続的運用方針



# 学校施設の長寿命化計画の構成について

## 目標設定

### (1) 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

- ・学校施設の長寿命化計画の策定に当たっての背景や目的を記載する。
- ・施設の現状と今後の施設整備の基本的な方針、日常的な維持管理の方針等を考慮の上、計画期間を設定する。

### (2) 学校施設の目指すべき姿

- ・国や地方公共団体の教育振興基本計画や学習指導要領のほか、各地方公共団体の教育ビジョン等に掲げられた施策を基本として、それらを実現するために学校施設としてどのような機能・性能が必要となるかを検討し、目指すべき姿を示す。

## 実態把握

### (3) 学校施設の実態

#### ① 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

- ・地方公共団体の人口状況や財政状況、他の公共施設の状況等の学校施設を取り巻く状況のほか、学校施設の保有量や将来の更新コスト、保有教室の活用状況、学校施設毎のコスト状況等について現状と課題を整理する。

#### ② 学校施設の老朽化状況の実態

- ・改修方法等の検討に必要な劣化状況等の実態として、構造躯体の健全性や構造躯体以外の劣化状況等の評価を行い、現状と課題を整理する。

## 方針の設定

### (4) 学校施設整備の基本的な方針等

#### ① 学校施設の規模・配置計画等の方針

- ・学校施設の実態や目指すべき姿等を踏まえ、今後の学校施設の規模や配置計画に関する方針について記載する。
- ・計画策定時点で個々の施設に係る方針が立てられない場合、今後の当該方針の策定に向けた検討時期を記載することが重要である。

#### ② 改修等の基本的な方針

- ・学校施設の実態を踏まえつつ、目指すべき姿を実現していくための改修等の基本的な方針として、長寿命化や予防保全の方針、目標使用年数、改修周期等を示す。

### (5) 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

#### ① 改修等の整備水準

- ・把握した現状の整備水準等を踏まえ、域内の学校施設に関する統一的な方針として、今後の改修等による整備水準を設定する。

#### ② 維持管理の項目・手法等

- ・各学校施設の維持管理を効率的・効果的に実施するため、点検・評価の項目を整理する。また、点検・評価の項目毎に調査や修繕の方法、周期等を設定する。

## 長寿命化計画の策定・運用

### (6) 長寿命化の実施計画

#### ① 改修等の優先順位付けと実施計画

- ・今後の学校施設の改修等に関する優先順位付けの考え方を示した上で、今後の改修等の内容や時期、費用等を整理し、年次計画を策定する。
- ・計画策定時点において、個々の施設に係る規模・配置計画等の方針が立っていない場合には、今後も学校施設としての機能を維持すると仮定して、実施計画を策定する。

#### ② 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

- ・計画に従って長寿命化を行った時のコストの見通しを明らかにする。
- ・改築中心の場合とコストの比較・評価を行い、長寿命化の効果を明らかにする。

### (7) 長寿命化計画の継続的運用

#### ① 情報基盤の整備と活用

- ・把握した現状データの蓄積方法を記載する。

#### ② 推進体制等の整備

- ・学校施設の長寿命化計画を継続的に運用していくために必要な組織体制等の充実方策について、記載する。

#### ③ フォローアップ

- ・学校施設の長寿命化計画の進捗状況等について、適切な期間内にフォローアップを実施し、必要に応じて計画を更新する旨を記載する。

# 学校施設の長寿命化計画策定に係る手引作成検討会について

平成26年10月20日  
文教施設企画部長決定

## 1 趣旨

公共施設の約4割を占める学校施設は、建築後25年以上経過した建物の面積が全体の約7割を占めるなど、老朽化が深刻である。

厳しい財政状況の下で、今後も増加する膨大な老朽施設を再生するためには、施設の劣化状況や学校施設を取り巻く環境を総合的に把握し、効率的かつ効果的な施設整備を計画的に行っていくことが重要である。

平成25年11月に策定された「インフラ長寿命化基本計画」においては、戦略的な維持管理・更新等を推進するため、各インフラ管理者が個別施設毎の具体的な対応方針を定める計画として個別施設毎の長寿命化計画をできるだけ早期に策定することとされた。今後、地方公共団体が、老朽化した学校施設に係る中長期的な整備計画の策定を迅速かつ効果的に進められるよう、その具体的な手法や留意事項をまとめた手引を作成する。

## 2 調査研究事項

- (1) 学校施設の長寿命化計画策定の手引の作成について
- (2) その他

## 3 実施方法

- (1) 別紙1の学識経験者等の協力を得て、2に掲げる事項について調査研究を行う。
- (2) (1)の他、教育に関する政策に係る基礎的な事項の調査および研究の状況を把握するため、別紙2に掲げる特別協力者の参画を得る。
- (3) 必要に応じ、その他の関係者の協力を求める。

## 4 実施期間

平成26年10月20日から平成27年3月31日までとする。

## 5 その他

この調査研究に関する庶務は、大臣官房文教施設企画部施設助成課において行う。

(別紙1)

学校施設の長寿命化計画策定に係る手引作成検討会  
委員名簿

氏名	職名
上野 淳	首都大学東京理事・名誉教授
鬼沢 浩志	一般財団法人建築保全センター参事兼保全技術研究所第三研究部長
倉斗 綾子	千葉工業大学工学部助教
丹野 典和	川崎市教育委員会事務局教育環境整備推進室長
寺沢 弘樹	流山市総務部財産活用課ファシリティマネジメント推進室長
望月 伸一	株式会社ファインコラボレート研究所代表取締役
山本 康友	首都大学東京都市環境学部客員教授

(以上7名、五十音順、敬称略)

(別紙2)

学校施設の長寿命化計画策定に係る手引作成検討会  
特別協力者名簿

氏名	職名
齋藤 福栄	国立教育政策研究所文教施設研究センター長

(以上1名、敬称略)

---

審議経過

第1回 (平成26年11月10日)

- 手引き作成の進め方について
- 有識者からのヒアリング
  - ・丹野委員 (川崎市教育委員会事務局教育環境整備推進室長)
  - ・望月委員 (株式会社ファインコラボレート研究所代表取締役)

第2回 (平成26年12月15日)

- 学校施設の長寿命化計画策定に係る手引 (素案) について

第3回 (平成27年2月12日)

- 学校施設の長寿命化計画策定に係る手引 (案) について

第4回 (平成27年3月18日)

- 学校施設の長寿命化計画策定に係る手引 (案) について